

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0472100080
法人名	社会福祉法人 紀心会
事業所名	グループホーム メサイア
所在地 (電話番号)	〒2201 宮城県亶理郡山元町山寺字堤山8-3 (電話) 0223-33-8898
評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20 年 8 月 5 日

## 【情報提供票より】(平成 20 年 7 月 21 日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 9 月 19 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 12 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	14.1 人

## (2) 建物概要

建物形態	○併設/単独		○新築/改築	
建物構造	鉄筋		造り	
	1階建て		1階 ~ 階部分	

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

## (4) 利用者の概要(7 月 21日現在)

利用者人数	17名	男性	4名	女性	13名	
要介護1		3名	要介護2		3名	
要介護3		7名	要介護4		4名	
要介護5		0名	要支援2		0名	
年齢	平均	86歳	最低	75歳	最高	94歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	平田外科医院・宮城病院・藤田歯科医院・松本歯科医院・マコト歯科医院
---------	-----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>晴れた日には太平洋を見渡せるという小高い丘に、福祉ゾーン(老人保健施設、ヘルパーステーション、ケアハウス、居宅介護支援、グループホーム)がある。西洋風の明るい色彩の建物群の中にグループホーム(メサイア)がある。約6年前、認知症高齢者の予想以上の増加に、認知症になっても日常生活が継続できるよう、支援したいという思いでグループホームが設立された。その思いがメサイア(救世主)という名称にも現れている。ホームの運営者は、福祉サービスは、ヒューマンサービスであり対人サービスである事を理解し、現場をよく理解しようと、毎月の行事や食事会等にも参加している。職員は、理念を漠然と理解しているのではなく行動規範として、「人間として、その人らしく」を意識してよりよい生活支援を目指している。</p>
---

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>①理念の見直しは、皆で話し合いはしているが成文化されていないので継続になった。②地域とのつながりは、一般の民家から少し離れている事もあり努力されているが難しい。運営推進会議などを通して、尚一層地域との交流を進めていただきたい。③運営推進会議は関係者の協力で第一回を開催する事ができたがまだまだ定着されていない。運営推進会議の主旨を皆さんに理解して頂き実りの有る会議にしていただきたい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各職員はそれぞれ自己評価に取り組み、リーダーを中心に話し合い、ユニット毎にまとめられた。話し合いは職員相互の理解につながり、ケアを見直す機会になり、いろいろな「気づき」が取り組んでいきたい項目になった。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は始まったばかりである。会議の主旨を理解しメンバーの意見交換を通して、ホームのよき理解者として協力して頂き、具体的なサービスの向上につながるよう一層の努力をお願いしたい。尚、メンバーには、知見を有する人(防災、防犯、人権、生活、医療などの関係者)もテーマによっては、オブザーバーとしての参加も考えていただきたい。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>管理者は、相談や苦情はサービスの向上に貴重な情報源である事を理解しており、運営適正化委員会の委員を第三者に委嘱し、連絡先を記載したポスターが玄関に掲示しているが、重要事項説明書には記載がないのでお願いしたい。委員は気軽に相談できる方である事を、繰り返し家族に伝えていただきたい。尚、メサイア新聞で、ホームの行事や生活の様子が写真中心で紹介され、家族は喜んでいるので一層の充実を期待したい。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームは地域にとけ込もうと夏祭りや収穫祭等にも参加をしたり、散歩や外出の際には、挨拶をしたり努力をしている。また、地域の商店街では、入居者も顔なじみになり認知症に理解を示して頂いている。運営推進会議などを通して尚一層地域との交流を深めることを期待したい。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念は「ケアのあり方」を基本としたものであるが、グループホームは、地域密着型サービス事業所として地域との関係が重視されることになった。その主旨と役割を理解しその目指すものを、独自の理念として皆で検討していただきたい。	○	法人の基本理念をベースにしても、地域との関係性をより強化し、心に留められるような内容になるよう皆で話し合っていたいただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、理念を行動規範として、「人間としてその人らしく」を意識し、日常勤務の中でよりよいケアを目指している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りや収穫祭等に参加したり、散歩や外出の際には挨拶をしたり努力されている。また地域の商店街では、入居者も顔馴染みになって認知症に理解を示して頂いているが、尚一層地域との交流が深まることを期待したい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各職員はそれぞれ自己評価に取り組み、リーダーを中心に話し合い、ユニットごとにまとめられた。話し合いは職員相互の理解につながりケアを見直す機会になり、結果いろいろな「気づき」があり取り組んでいきたい項目になった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は第一回を実施したところであるが、会議の主旨を理解しメンバーの意見交換等を通して、メンバーがホームのよき理解者として協力を得、具体的なサービスの質の向上につながるよう一層の努力をお願いしたい。	○	運営推進会議は、基準省令にもあるように2ヶ月に1回は開催されるよう努力し、メンバーにはテーマによっては知見を有する人(防災、防犯、人権、生活、医療、などの関係者)のオブザーバーとしての参加も考えていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政にはいろいろ指導を頂いている。職員は「地域ケア会議」に積極的に参加したり、地域包括支援センターの指導や助言も受けている。認知症になっても安心して住める街つくりの為に、行政とパートナーシップを発揮し、福祉の地域力の向上に努力していただきたい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	訪問した家族には、近況報告や金銭管理の報告をしている。来られない家族には、毎月、健康状態や日常生活の様子や購入した物があれば領収書等を一緒に送っている。尚、メサイア新聞で、ホームの行事や生活の様子等を写真を中心に紹介され家族は喜んでいる。できるだけ定期的に発行されることを期待したい。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は、相談や苦情はサービスの向上に貴重な情報源であることを理解しており、運営適正化委員会の委員を第三者に委嘱し、連絡先を記載したポスターが玄関に掲示しているが、重要事項説明書に記載はない。第三者委員は気軽に相談できる方である事を、繰り返し家族に伝えていただきたい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者にとって馴染みの職員や馴染みの場所は、安心して生活できる条件である。退職職員について入居者に説明されているが、家族にも丁寧に伝えてほしい。管理者は新人職員に今までの入居者の生活のペースやリズムを、できるだけ変えないよう担当制の良さを残すよう指導していただきたい。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員の資質の向上のために研修をしなければならないと言うことをよく理解しており(基準省令の義務条項)、外部研修や法人全体の研修にも積極的に参加させている。そのためにも若干の職員の余裕は必要としている。また、資格の取得にも積極的に支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は、NPO県グループホーム協議会の南ブロックの研修会等に参加するなど、地域の同業者との交流会でお互いに情報交換をし、相互理解をすることにより励みにもなり、サービスの向上につながっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者は、どうしても家族にホームに入れられたと言う思いがある。その思いを少しでも少なくする為に、話し合いをしたりホームに来て見てもらっている。尚、ホームに馴染むように、無理をしないで家族の意見を聞いたり、本人のペースを見ながらケアをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と入居者は生活を共にする擬似家族として、入居者が不安や混乱しないようにできるだけ一緒に過ごすようにしている。入居者は人生の経験者であり管理者も職員も、漬物のつけ方等をはじめいろいろ教わることが多い。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の把握はケアの原点である。家族などから聞いたり、何気ないつぶやきや日常生活の中から思いや意向を把握する努力をしておき、それをケアプランに活かしている。尚、意思表示の困難な方でも表情やしぐさなど、時間をかけて把握するよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、本人の状態、家族の意向、関係者によるカンファレンスを行ない策定している。個別で短期、長期の目標も具体的である。今後は東京センター方式を取り入れたいとしている。尚、作成された介護計画は家族にも説明し同意を得て渡している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、認知症の度合いの変化や医療上の状態の変化などに対応して、タイミングよく見直されている。又定期的には3ヶ月に1回は経営者も含めて、関係者で介護計画の見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	住み慣れた地域で生活をしていると言う実感をもってもらうために、社会生活上の便宜の提供としていろいろな支援をしている。かかりつけ医の付き添いや送迎も、必要に応じて対応している。条件付で可能になったホームでのデイサービスやショートステイは、ハード面のこともあり今のところは考えていない。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	「ホームの母体が病院であることもあって、医療や健康上の支援は問題なく家族も安心している」。(家族アンケートより) かかりつけ医と協力医の連携もよい。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日常の健康管理や医療上の対応は、入居の時に家族にいろいろお話をしている。その延長上に「重度化や看取り」がある。ホームとしてできる事できない事も含め、「重度化や看取りの指針」を成文化し、それによって早期から家族や関係者と話し合い、必要によっては意思確認書の作成もしていただきたい。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	呼び名一つにしても自尊心を傷つけないように配慮し、職員の言葉使いや、接遇の様子を見ても普通の生活が見られた。個人情報の保護については、家族にも説明し、職員もよく理解していた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	認知症の方でもその人らしく生活できるように、それぞれの思いやペース、リズムを大切に支援している。ともすれば職員の都合や立場でケアしがちであるが、お互いに戒めあっている。起床時間、朝食の時間、就寝の時間等、各自それぞれである。今後共職員の都合を優先する事のないようにしていただきたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は、「食事は楽しみです」と言われた。美味しく楽しい食事会にするため、準備の段階からお手伝いできる人には声をかけ、盛り付けなども職員と一緒にしている。食事中は食材の話や味付けの事など、話が弾み明るい笑い声が聞かれた。定期的な外食の楽しみはこれからの話し合いである。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は衛生的な観点だけではなく、少しでも気持ちよく好きな時間にゆっくり入れるよう上手に誘導していただきたい。また、入浴を拒否する人にはいろいろ工夫されているが、足浴や清拭等も気分転換になるので取り入れていただきたい。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の得意とする事や持ち味をよく把握し、その人らしい生活ができるように支援し、その事が少しでも生き甲斐につながるように一緒に作業をしている。調理の手伝いや洗濯物のたたみ等もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は気分転換になり、できるだけ希望に添えるよう努力している。季節ごとに一寸遠くへドライブに出かけたり、近くを夕方1時間くらいドライブしたりしている。「友人宅とか買い物を楽しむので時間があると外出しているようです。」(家族アンケートより)		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設長や管理者は、玄関に鍵を掛けることの異常性はよく理解しており、日中は鍵をかけていない。徘徊気味の方もおられるが見守りや声がけしている。外部の不審者に対しては、地域や法人全体の連携で対応したい。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や想定される地震等に対して、災害対策委員会でいろいろ検討し、非常食料や飲料水の備蓄をしている。また、マニュアルを作り避難訓練も年2回は実施しているが、夜間を想定した訓練や地域と連携した訓練もない。	○	深夜の夜勤者一人のときにライフライン(電気、水道、ガス)が断たれるような大災害の時でも、慌てず避難誘導ができるように、職員と入居者が一緒になって夜間を想定した訓練も検討していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は美味しく楽しく食するとともに、栄養的なバランスや食事量なども給食委員会で話し合って実行している。また、飲み込みの悪い人には刻みやとろみなど工夫しているが、水分の摂取量についても配慮していただきたい。尚、できるだけ定期的に管理栄養士による指導助言もしていただきたい。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間全体が柔らかい照明で、自然な風を取り入れ、夏でもクーラーの必要がない。食堂と居間はテーブルやソファで仕切られている。テーブルでは食事の準備の手伝いをしており、ソファで休んでいる人もいる。棚の上には人形が飾られたり、熱帯魚を飼育している水槽もある。入居者の友人の絵が飾られたり、ベランダを通して木々の緑が鮮やかでほっとする。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	管理者は、認知症の方にとって、馴染みの物が如何に大切かをよく理解をしている。家族にも身の回りのもを持ってくるようお願いしている。今まで使っていた机、椅子、衣類、テレビ、位牌、医学の専門書など、そこにある事で安心のよりどころになっている。		